富山市科学博物館
TOYAMA SCIENCE MUSEUM

富山県のホクリクサンショウオの生息状況

著者	南部 久男, 荒木 克昌, 福田 保, 森 大輔
雑誌名	富山市科学博物館研究報告
号	37
ページ	79-81
発行年	2013-06-25
URL	http://repo.tsm.toyama.toyama.jp/?action=repository_uri&item_id=995

富山市科学博物館研究報告第37号，pp. 79－81；(2013)

富山県のホクリクサンショウオの生息状況＊

南部　久男[1)]，荒木　克昌[2)]，福田　保[3)]，森　大輔[4)]

[1)]富山市科学博物館 939-8084富山市西中野町一丁目8-31，[2)]ワイルドアイズ 930-0324中新川郡上市町新町52，
[3)]富山東高校 939-8191富山市下飯野荒田6-1，[4)]富山市ファミリーパーク 930-0151富山市古沢254

Note on Hokuriku salamander, *Hynobius takedai*, in Toyama Prefecture, Japan

Hisao Nambu[1)], Katsumasa Araki[2)], Tamotsu Fukuda[3)] and Daisuke Mori[4)]

[1)]Toyama Science Museum;1-8-31 Nishinakano-machi, Toyama-shi, Toyama 939-8084 Japan
[2)]Wild Eyes; 52 Shinmachi,Kamiichi-machi, Nakaniikawa-gun, Toyama 930-0324 Japan
[3)]Toyama-higashi Senior High School; Shimoiinoarata 6-1, Toyama-shi, Toyama 939-8084 Japan
[4)]Toyama Municipal Family Park Zoo, 254 Furusawa, Toyama-shi, Toyama 930-0151 Japan

A total of 70 spawning points and 568 paired egg sace of the Hokuriku salamander, *Hynobius takedai*, were observed from 1981 to 2013 in Toyama Prefecture. The 44 spawning points that had produced egg sacs from 1981-2003 had been reduced by 15.9% for the years 2010-2013. The total number of the egg sac pairs (originally 410 pairs) was also reduced to 27.4% for the same period. It is thought that the spawning points and laid egg sacs of the Hokuriku salamander in Toyama Prefecture have been decreasing for a little more then 30 years.

Key words：Hokuriku salamander, *Hynobius takedai*, Toyama
キーワード：ホクリクサンショウウオ，富山県

はじめに

ホクリクサンショウウオは，富山県，石川県にだけ分布し(松井，2000)，富山県では，中央部や西部の丘陵に生息する(南部，1982，1994，1997，1998; Nambu，1986; 南部・西岡，2003; 南部・福田，1994; 南部ら，2005，2006; 田中，1986; 富山県，1987，2012)．本種の生息地は限られ，生息状況が悪化していることから環境省(2000)の「絶滅危惧ⅠB類」，富山県(2012)の「絶滅危惧Ⅰ類」に指定されている．今回，1980年代から2010年代初めまでの本種の富山県における生息状況を報告する．

方法

富山県内のホクリクサンショウウオの産卵場所を1981～2013年に調査し，環境，卵嚢数等を記録した．また，近年の生息状況の変化を知るため，1981～2003年に行った44産卵地点を2010～2013年に再調査し環境の変化や卵嚢数等を比較した．なお，一部はすでに報告し(南部，1982，1994，1997，1998; Nambu，1986; 南部・西岡，2003; 南部・福田，1994; 南部ら，2005，2006)，本報告でもこれらのデータを使用した．なお，田中(1986)が報告したデータも引用し分析に用いた．

富山県のホクリクサンショウオの産卵は，丘陵の谷の湿地，水溜まりで行われる（南部，1994)．産卵場所の環境を概ね次のとおり分類した．

A丘陵の谷間で人為的な影響は少ない
　a 沢，湿地
　b 溜め池
B丘陵の谷間で人為的な影響がある
　a 人工構造物*と関係がある
　　1 水溜まり・水路
　　2 溜め池
　b 水田と関係がある
　　1．耕作田の溝，隣接した水溜まり
　　2．放棄田**の溝，湿地，水溜まり
　c その他

＊ 山際の道路等
＊＊ほとんどの場合放棄されてから年月がたち，水田の面影はなくなり，湿地と化し，ヨシの繁茂や低木の生育が見られる．スギが植林されている場所もある．

＊富山市科学博物館研究業績第447号

産卵場所は卵嚢が確認された場所とした．複数年同一産卵場所を調査した場合は，最も多くの卵嚢が確認された時の環境，卵嚢数のデータを採用した．卵嚢は一腹分（2本）を1対，1本の場合は0.5対と数えた．

結果

１．確認された産卵場所

1981年～2013年にかけ，富山県中央部（神通川と庄川の間の丘陵）と西部（小矢部川以西の丘陵）の計70地点で産卵場所を確認した（表1）．確認した産卵場所を環境庁（1997）のメッシュで表すと，二次メッシュ（約10×10km）で計7メッシュ，三次メッシュ（約1×1km）で計26メッシュであり，中央部で76.9%（三次メッシュ）を占めた．確認された総卵嚢数は568対で，そのうち，県中央部が85.2%を占めた．産卵場所の標高の範囲は10～150mで，100m以下が92.8%を占めた（表2）．

確認された産卵場所の環境は，丘陵の谷にある「人為的な影響の少ない湿地・沢，溜め池」が全産卵地点の4.3%，「人為的な影響のある地点」が全地点の95.7%を占めた（表3）．後者の内，「水田と関係のある産卵場所」が全地点の64%を占め，その内，放棄水田は80%（全産卵地点の51%）を占めた．

確認卵嚢数の範囲は，1～58対であった（表4）．5対以内が57.1%，10対以内は75.7%を占めた．20対以上確認された産卵場所は5地点（全産卵地点の7.1%）と少なく，その確認卵嚢数は21，25，26，39，58対であった．

表１　確認された産卵場所の数、メッシュ数

	産卵地点	産卵地域 1)	メッシュ数		卵嚢数
			二次	三次	
中央部	53	47	3	20	484
西部	17	13	4	6	84
計	70	60	7	26	568

1）隣接した産卵地点は1地点とした。

表２　産卵場所の標高

標高範囲(m)	地点	割合
10～50	36	51.4
51～100	29	41.4
101～150	5	7.1
計	70	

表３　産卵環境

産卵環境			確認地点	割合(%)
A人為的な影響少ない			3	4.3
	a 沢，湿地		2	
	b 溜め池		1	
B人為的な影響がある			67	95.7
	a 人工構造物と関係がある		20	(28.6)
		1 水溜まり・水路	18	
		2 溜め池	2	
	b 水田と関係がある		45	(64.3)
		1 耕作水田の溝・隣接した水溜まり	9	
		2 放棄水田の溝、湿地、水溜まり	36	
	c その他		2	(2.9)
			70	

表４　産卵地点で確認された卵嚢数

卵嚢数(対)	地点数	割合(%)
1～5	40	57.1
6～10	13	18.6
11～20	12	17.1
21～30	3	4.3
31～40	1	1.4
41～50	0	0
51～60	1	1.4
計	70	

２．1983～2003年と2010～2013年の比較

1983～2003年に確認した44地点の産卵場所のうち，工事等で産卵場所が消失した地点は15.9%，卵嚢が発見されなかった地点29.5%，卵嚢が激減（10対以上）した地点は，15.9%であった（表5）．卵嚢が発見されなかった13地点の産卵場所のうち3地点は，水涸れが原因と考えられた．

1983～2003年に確認した44地点の最大卵嚢数の合計は410対で，2010～2013年のそれは112.5対で，27.4%に減少した．

表５　産卵場所の確認卵嚢数の比較
（1981～2003年と2010～2013年）

状態	産卵場所数	割合(%)
消失	7	15.9
発見できず	13	29.5
激減（10対以上）	7	15.9
減少（６～９対）	1	2.3
同じ（±５対以内）	14	31.8
増加（６対以上）	2	4.5
計	44	

考察

富山県で1981～2013年に70地点のホクリクサンショウオの産卵地点を確認し，計568対の卵嚢を確認した．産卵場所は県中央部の丘陵で多く見られた．

産卵場所の大部分は標高が100m以内の丘陵の谷にあり，多くの地点が水田に依存し，その大部分が放棄水田であった．過去（1981～2003年）と近年（2010～2013年）を比較すると，調査した産卵場所は，近年消失した地点や，卵嚢が発見されなかった地点があり，近年の総確認卵数も過去の約27%に減少した．このようなことから富山県のホクリクサンショウウオは調査した範囲内では，約30年間で産卵場所，生息数ともに明らかに減少していることが分かり，一部の地域では明らかに環境の変化がその要因であると考えられた．

謝辞

調査にご協力頂きました小林周一氏に心よりお礼申しあげます．

文献

環境庁，1997．都道府県別メッシュマップ－自然環境保全調査用－16富山県．63pp．

環境省，2000．改訂・日本の絶滅の恐れのある野生生物－レッドデータブック－．3爬虫類両生類.自然環境センター.120pp．

松井正文，2000．ホクリクサンショウウオ.改訂・日本の絶滅の恐れのある野生生物－レッドデータブック－（両生類爬虫類）．pp.74-75．環境庁編．

Nambu H., 1986．On *Hynobius takedai* (Urodela, Hynobiidae) from lowland of Toyama Prefecture, Central Japan．Bull.Toyama Sci.Mus.9:73-85．

南部久男，1982．富山市呉羽丘陵のサンショウウオ（*Hynobius* sp.）について（予報）．富山市科学文化センター研究報告，4：69-72．

南部久男，1994．富山市におけるホクリクサンショウウオの産卵状況，卵数及び卵嚢の形態.富山市科学文化センター研究報告，17：105-115．

南部久男，1997．富山県小矢部市におけるホクリクサンショウウオの記録．富山市科学文化センター研究報告，20：109-110．

南部久男・福田　保，1998．魚類・両生・爬虫類．pp.133-150．ファミリーパーク地内自然環境総合調査報告．

南部久男・福田　保，1994．呉羽丘陵の両生類・爬虫類．pp.201-210．富山市呉羽丘陵自然環境調査報告．富山市科学文化センター．

南部久男・福田　保・荒木克昌，2005．富山県中央部（富山市南西部・婦中町西部・山田村）の両生類・爬虫類．pp.55-62．里山（富山県中央部）の自然環境調査報告書Ⅰ環境・動物・植物編.富山市科学文化センター．

南部久男・福田　保・荒木克昌，2006．富山県中央部の里山の両生類に関するメモ．pp.141-172．里山（富山県中央部）の自然環境調査報告書Ⅱ．富山市科学文化センター．

南部久男・西岡　満，2003．富山県高岡市におけるホクリクサンショウウクの新産地．富山市科学文化センター研究報告，26：143-144．

田中清祐，1986．繁殖期におけるホクリクサンショウウオの縄張り行動．爬虫両生類学雑誌，11(4)：173-180．

富山県，1987．富山県の両生類・爬虫類.富山県両生爬虫類編．pp.66．

富山県，2012．富山県の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック2012，451pp．